

令和2年度 第1回鳥取県夜間中学設置検討委員会の概要について

令和2年9月4日

小中学校課

令和2年度 第1回鳥取県夜間中学設置検討委員会を開催しましたので、概要について報告します。

1 日程等

- (1) 日 時 令和2年9月4日（金）午前10時から午前11時30分
- (2) 場 所 鳥取県庁議会棟特別会議室
- (3) 出席者

区 分	氏 名	職 名
学識経験者（大学教授等）	山根 俊喜	鳥取大学地域学部長
外国人支援関係者	岩本 由美子	公益財団法人 鳥取県国際交流財団事務局 次長
民間による不登校支援機関関係者	横井 司朗	学校法人鶏鳴学園 理事長
市町村教育委員会代表	小椋 博幸	倉吉市教育委員会 教育長
県中学校長会代表	岡田 年史	鳥取市立国府中学校 校長
事務局	足羽 英樹	鳥取県教育委員会 教育次長
	中田 寛	鳥取県教育委員会 参事監
	岡本 修典	いじめ・不登校総合対策センター長

（敬称略）

事務局出席者 小中学校課義務教育主査 下田 智美
小中学校課課長補佐 岸田 賢
小中学校課指導主事 嶋田 武弘

2 協議概要

「鳥取県で考えられる県立夜間中学の形について」

(1) 設置検討にかかる経緯・課題、学校形態（案）について

<主な意見>

○ 対象者

- ・夜間中学での学びを必要とする全ての方への学びを保障するため、可能な限り、あらゆる方を対象とすればよい。
- ・不登校の生徒の選択肢を広げるため、対象とするのがよい。
- ・令和元年度施行の日本語教育推進法により、外国籍の方への日本語教育の充実が自治体の責務であることが義務付けられたことから、夜間中学設置により、その責務を果たしていただきたい。本来の対象である、義務教育を受けていない方は少ないと思われるが、日本語が話せない、日本文化が分からない方はおり、鳥取での自立した生活のステップアップのため、学びたい方はいるのではないのか。

○ 学校形態等

- ・全国に先駆けた最新のICTを活用し、個別最適化された、新しい夜間中学をつくるのがよい。
- ・外に出るのが苦手な子どもたちにも遠隔授業などで学べる形態がよい。

- ・ ICT だけでなく、生活習慣、社会性・協働性を養う場として、これまでの学校くささも大切であり、修学旅行や運動会などの学校行事があるとよい。
- ・ 鳥取県の場合、受入れが昼間だけ夜間だけになると不便さがある。二部制にするのがよい。
- ・ 通うことが困難な生徒のために、本校とサテライト教室の設置を考えるとよい。
- ・ 可能な範囲で、できるだけ柔軟で、義務教育としての質を落とさず、理想的な学校になるとよい。
- ・ 中学生から大人までいろいろな対象者を指導できる指導者をどう確保するか。

(2) 新たなニーズ調査について

<主な意見>

- ・ 夜間中学のイメージを具体的に伝えたいので、ニーズ調査をするのがよい。
- ・ ニーズ調査は、その後の入学などにもかかわってくるので、継続していただきたい。また、そのような情報を関係者にも伝えていただくと、役立つことがあると思う。
- ・ SNS を活用するのがよい。

(3) (案) スケジュールについて

開校までのスケジュールを【STEP 1～3】に分けて取り組む予定であり、令和5年度～令和6年度頃までの開校を目指したい。

<主な意見>

- ・ 学齢期の生徒を対象とするのであれば、市町村教育委員会としっかりと連携を取ったうえで、進めていくのがよい。